



神かみに

捧たもげる

神かみと

舞まう



奥三河の土俵祭り

国くに指し定てい重じゆう要よう無む形けい民みん俗ぞく文ぶん化か財ざい



# 花祭りとは？

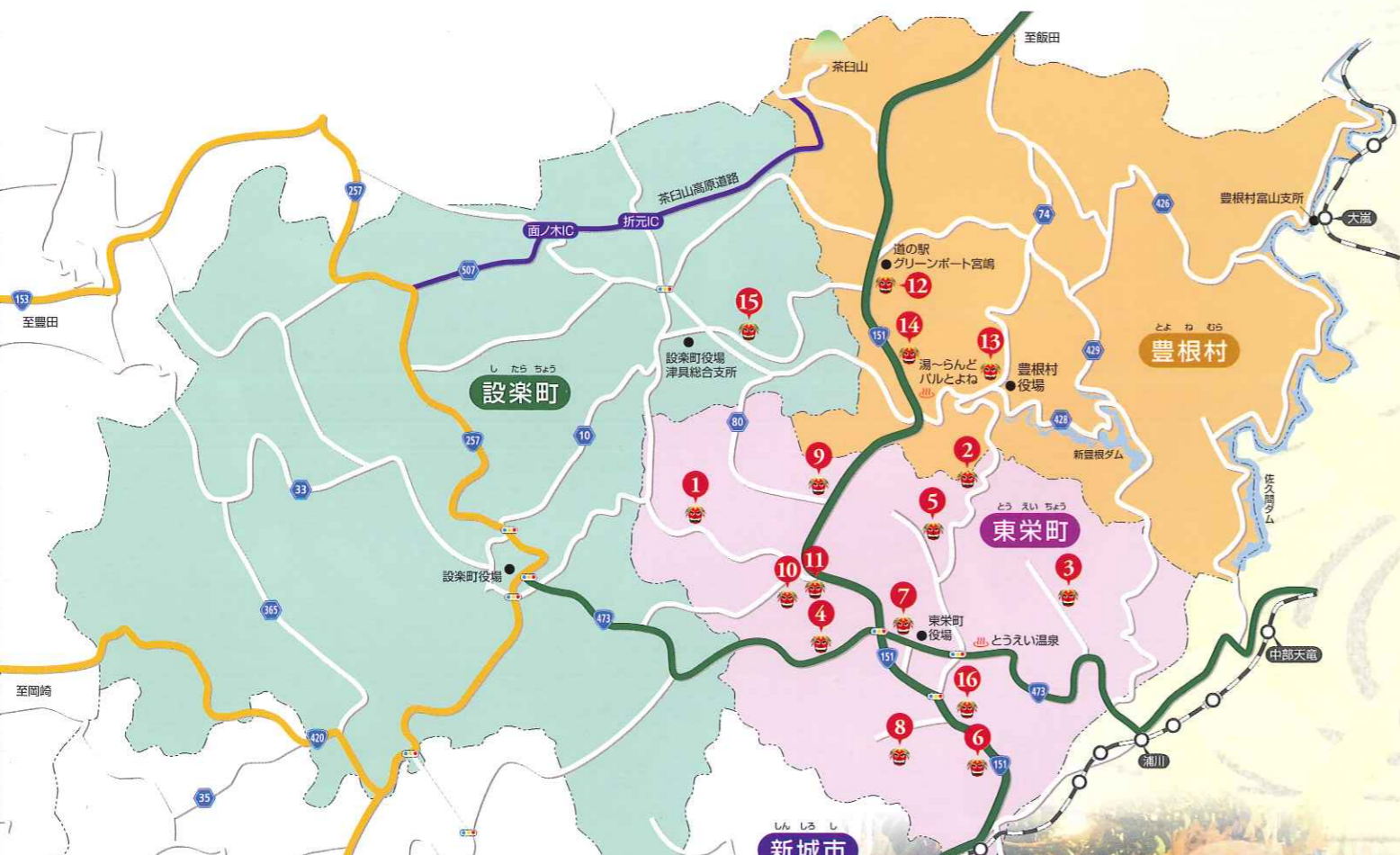
「テホヘ テホヘ」と、夜を徹して繰り広げられる花祭は、鎌倉時代末期から室町時代にかけて、熊野の山伏や加賀白山の聖によってこの地に伝えられたといわれています。「冬至」の前後、太陽の力の復活を願って行われる「霜月神楽」の一種とされるこの祭りは、天竜川水系に今も伝わる神事芸能で700年以上にわたって継承されています。

当初は湯立てと清め中心の祭りだったと考えられますが、伊勢神楽や諏訪神楽なども取り入れながら、土地の人たちによって育まれ、約400年ほど前に現在に近い形態になったようです。

そのころは大神楽といって、七日七夜もかけて130番もの舞が盛大に行われ大規模なため莫大な資金と労力が必要で、金100両、白米100俵が備蓄され、更に不足に備えて神楽林も保有していました。数地区が一緒になって、7年日や20年日という間隔で行われていましたが、大行事のため七日七夜にわたる大神楽を省略・集大成し一日一夜の祭りとして完成されたのが現在の花祭りであるといわれています。大神楽がなぜ花祭りになったのかは多くの人が持つ疑問であり、「花」の語源についても10前後の説があります。

祭りは花宿の清めから始まり、神迎え、湯立て、宮人の舞、青年の舞、稚児の舞、鬼の舞、禰宜や巫女・翁などの神々の祝福、少年の舞、湯で清める湯ばやし、神返しまで休む事なく、ほぼ一昼夜をかけておこなわれます。

八百万の神々を勧請し、諸願成就、厄難除け、生まれ清まりを祈願するこの祭りは、昭和51年に国の重要無形民俗文化財に指定され、毎年11月から3月上旬にかけて、郡内15カ所の地区で盛大に開催されます。



# 花祭りで、あなたは神秘を体験する

花祭り開催予定表		
町村名	地区名等	開催場所・日程
東栄町	① 小林 こばやし	小林諏訪神社境内 11月の第2土曜日
	② 御園 みその	御園集会所 11月の第2土曜日～翌日曜日
	③ 東菌目 ひがしそのめ	老人憩いの家 東菌目荘 11月の第3日曜日
	④ 月 つき	月集会所 11月22日・23日(祝)
	⑤ 足込 あしこめ	あしてめ集会所 11月の第4土曜日～翌日曜日
豊根村	⑫ 坂宇場 さかうば	八幡神社舞庭 11月の第4土曜日～翌日曜日
東栄町	⑥ 河内 こうち	河内長峰神社境内 11月の最終土曜日～翌日曜日
	⑦ 中設楽 なかしたら	中設楽花祭舞庭(中設楽改善センター前) 12月の第1土曜日～翌日曜日
	⑧ 中在家 なかざいけ	老人憩いの家 明寿荘 12月の第2日曜日
設楽町	⑮ 津具 つく	白鳥神社 1月2日・3日
東栄町	⑨ 古戸 ふつと	古戸集会所 1月2日・3日
豊根村	⑬ 下黒川 しもくろかわ	ほのぼの会館 1月2日・3日
	⑭ 上黒川 かみくろかわ	熊野神社舞庭 1月3日・4日
東栄町	⑩ 下粟代 しもあわしろ	下粟代生活改善センター 「成人の日」前の土曜日～翌日曜日
	⑪ 布川 ふかわ	布川集会所 3月の第1土曜日～翌日曜日
豊根村	間黒 まくろ	休止中
	山内 やまうち	休止中

\*祭りの日程、時間は変更になる場合がありますので事前にお問い合わせください。

## 花祭りを詳しく知りたいなら 東栄町 16 花祭会館



鬼面、衣装のほか花祭りに関する道具が展示されています。

- 午前9時～午後4時
- 月曜日休館日 ●大人300円

お問合せ 東栄町教育委員会  
☎0536-76-1266



# 主な次第

舞も神事とともに重要であり、地区によって呼称や舞式に違いがあります。



**瀧祓い**  
瀧を祓い清め、湯立てに用いる神聖な「お瀧の水」を迎える。(禊の意味をもつ)



**湯立て**  
滝祓いをした後、お瀧の水を入れて湯を沸かし湯祓いをし、勧請した諸神に献じ祈禱をする儀式。



**市の舞(一の舞)**  
青年が扇と鈴を持ち舞う。大入系は笹を持つ。



**地堅の舞**  
青年の2人の舞で、扇・ヤチ・剣の採り物で舞庭を踏み固める意味がある。



**花の舞**  
3~4歳位から参加する。手に花笠を持って舞うことから花笠の舞ともいう。花の舞は、扇・盆・湯桶と年々成長とともに持ち物を変え舞うことになる。



**山見鬼**  
最初に登場する鬼で、山を割り、生命の再生を図り、生まれ清まりの重要な役割を担う鬼である。舞庭中央に据えられた竈に足を掛け、山を割る所作をする。



**三ツ舞**  
少年3人の舞。扇・ヤチ・剣の採り物で、花の舞を舞い上げた子供たちが次に取り組む舞で、内容も高度なものとなる。



**神鬼**  
最も重要視される鬼で、地区の人達は「神様」と呼んでいる。反門を踏み、大地に新しい生命力や活力を吹き込む鬼である。又、問答も神鬼の特徴でもある。



**ひの祢宜**  
祢宜の面をかぶり、ひの祢宜幣と鈴を持ち舞う。改め役の祢宜との問答があり、身そぎの祢宜などが含まれている。



**おつるひやら**  
神子・おかめ・ひよつこなどによる仮面の舞で、卸幣餅や、すりこぎ・しゃもじを手に、村人たちを祝福するために舞庭に現れる。ご飯や味噌を塗られるとその年は縁起がよいと言われている。



**四ツ舞**  
青年4人で舞い、時間も長く複雑な所作が含まれ、体力と洗練された技術が必要とされる。採り物は、扇・ヤチ・剣であるが、扇の舞は上着を採りものとする場面もある。



**翁**  
翁面をかぶり、翁幣と鈴を持ち舞う。改め祢宜との問答がある。生まれ在所、生い立ち、婿入りなど滑稽なやりとりは、観衆が合いの手を入れながらからかい、賑わう。



**湯離子**  
最も軽快なテンポの舞で、少年4人が湯たぶさ(蒸を束ねて作ったタワシ)を持ち、舞の終わり頃、舞庭を清めるように、竈の湯をところ構わず振りかける。この湯を浴びると病にかからないと歓迎されている。



**茂吉鬼(朝鬼)**  
最後の鬼で、湯蓋につるされた蜂の巣(お宝)を植で払い落とす所作があるが、縁起物として観衆はこれを奪い合う。蜂の巣の中身は、祓い銭と五色紙の細片である。



**獅子**  
滝祓いの獅子、清めの獅子とも言われ、花祭りの最後の舞である。舞庭を這うように舞い清める。



**鎮め**  
花太夫が鎮めの面を付け、数々の作法により荒ぶる神々を鎮める儀式。(2人で行うところもある)

<p><b>花太夫(はなだゆう)</b> 花祭の祭祀者で神事の一切を司る。神事には長大な祭文を唱えたり、多くの作法を行って神々を祀る。</p>	<p><b>宮人(みやうど)</b> 太夫の補佐役で6~7人が務める。太夫とともに神事にあたる。</p>	<p><b>離し方(はやしかた)</b> 神座に位置し、太鼓・笛・歌ぐらなど音楽の部分を担当する。</p>	<p><b>部屋番(へやばん)</b> 「部屋」という支度部屋において、舞い手の肩付けや鬼の面付けなどを担当する。祭りの進行・舞い手の手配・セイト番などの役割を担っている。</p>
<p><b>世話人(せわにん)</b> 花祭運営の一切を担う。炊事・接待・売店・酒番・添え花など担当を振り当てて務める。</p>	<p><b>セイト衆(せいとしゅう)</b> 舞庭の外側をセイトと呼び、炉を作って火を焚く。この火は本来舞庭を照らす灯りである。見物人の立ち見席でここに立つ人達をセイト衆と呼び、セイト番の役の者がここを管理する。ほろ酔い加減のセイト衆が軽妙な悪態をつくことで、舞庭に笑いを引き起こし、祭りを盛り上げている。</p>		

**花祭りを見る時には**

- 基本的に神社や集会所で夜通し行っています。日程、場所、開始時刻などは年や地区ごとに異なる場合がありますので、事前に教育委員会までお問い合わせください。
- 寒い時期ですので路面の凍結にご注意ください。冬用タイヤの装備やしっかりした防寒対策をお勧めします。
- 写真撮影などに際しては、マナーある行動をお願いします。

## 発行 / 北設楽花祭保存会 (東栄町教育委員会内)

<p>●設楽町教育委員会 ● 〒441-2301 愛知県北設楽郡設楽町田口字居立2番地 TEL.0536-62-0511 FAX.0536-62-1675 http://sitarakankou.on.arena.ne.jp/toppage.htm</p>	<p>●東栄町教育委員会 ● 〒449-0214 愛知県北設楽郡東栄町大字本郷字大森1番地 TEL.0536-76-1266 FAX.0536-76-1318 http://www.town.toei.aichi.jp/</p>	<p>●豊根村教育委員会 ● 〒449-0403 愛知県北設楽郡豊根村下黒川字蔭平2番地 TEL.0536-85-1311 FAX.0536-85-1164 http://www.vill.toyonaka.aichi.jp/</p>
--	--	---